るもい地域 芸術を巡るMAP

書を巡るルート　62P

1 金田心象書道美術館（幌延町）
2 焼尻郷土館（旧小納家）（焼尻島）
3 「滄海」石碑（焼尻島）
4 「北の蒼い海」石碑（羽幌町）
5 「記念公園ふるさと百年」石碑（羽幌町）
6 書の北溟記念室～中野北溟作品展示室（羽幌町）
7 留萌振興局庁舎（留萌市）
8 市立留萌図書館（留萌市）
9 留萌市海のふるさと館（留萌市）
10 旧商家丸一本間家（増毛町）
11 石狩市はますま郷土資料館（旧白鳥家番屋）（石狩市）
12 辻井京雲ギャラリー 墨響（雨竜町）
13 「石狩川」石碑（江別市）
14 「大地の手」石碑（札幌市）
15 「創成の川」詩碑（札幌市）
16 石川啄木歌碑（札幌市）

物語の舞台を巡るルート　64P

17 天塩町立国民健康保険病院（天塩町）
18 遠別町立遠別中学校（遠別町）
19 北海道遠別農業高等学校（遠別町）
20 歌越海岸（遠別町）
21 北日本牧場（初山別村）
22 しょさんべつ天文台（初山別村）
23 国道232号（羽幌町）
24 羽幌町離島会館（羽幌町）
25 北海道羽幌高等学校（羽幌町）
26 三毛別羆事件復元地（苫前町）
27 留萌港（留萌市）
28 旧瀬越駅前（留萌市）
29 瀬越海岸（留萌市）
30 旧瀬越駅跡（留萌市）
31 礼受牧場（留萌市）
32 国稀酒造（増毛町）
33 駅前観光案内所（増毛町）
34 旧旅館富田屋（増毛町）
35 増毛町の海岸（増毛町）
36 増毛駅（増毛町）
37 暑寒別岳スキー場（増毛町）
38 コテージミンズ（増毛町）

Rumoi Area × Calligraphy and Story Journey

るもい地域 芸術を巡る旅

るもい地域は中野北溟（なかの ほくめい）氏、金田心象（かねだ しんしょう）氏、辻井京雲（つじい けいうん）氏など、日本を代表する書の大家を輩出した土地。そして小説やドラマ、映画などの物語の舞台となった場所も存在する。ここではるもい地域の書が楽しめる施設、物語に登場する場所を巡る旅を提案する。

大家たちが揮毫（きごう）した名書を訪ねて歩く

羽幌町焼尻島出身の中野北溟氏、留萌市生まれの金田心象氏、そして空知地方の雨竜町出身の辻井京雲氏は、ともに日本を代表する書の大家である。彼らの作品から伝わってくるのは、荒い波や凍てつくほどの寒さなど、厳しい自然環境が体や精神に吸収され染み込んだ者のみが表現できる「書」があるということ。彼らの作品を堪能できる展示施設がそれぞれにあるので、静かにじっくりと鑑賞することが可能だ。展示施設以外にも公共の場所や公園に作品や石碑などがあるので、気軽に楽しむことができる。ほかにも明治の三筆と呼ばれた書家の作品が焼尻、増毛、石狩で見学可能。これらは鰊番屋や豪商の家屋に所蔵されていたもので、鰊景気の時代、この地域がいかに裕福だったかを雄弁に物語っている。

また、この地域には小説やドラマ、映画など、物語の舞台となった場所も多く存在している。風光明媚な漁村や、冬の荒々しい日本海など、まさに劇的な展開を助けるロケーションが揃っている。「書」や「物語に登場する場所」を巡ってみてはいかがだろうか。

Rumoi Area × Calligraphy and Story Journey

書を巡るルート

書の偉人たちの筆意に触れる

南は札幌から北は幌延まで、名書を訪ねるルートを提案した。専門の展示施設以外にも、公共の場所で展示されている作品、そして屋外の石碑や歌碑も紹介していく。

1 金田心象書道美術館
幌延町幌延102-1

金田心象の書作品約1200点、硯・筆・陶器類約400点を収蔵。1階は大型の書作品と喫茶室があり、2階は小型の書と愛用品を展示。

TEL.01648-2-3392
開館時間／5月1日～9月30日の9:00～16:00
休館日／開館期間中無休
入館料／大人320円、高校生以下無料

2 焼尻郷土館（旧小納家）
羽幌町焼尻東浜183

中野北溟の書「夏海に」の他、巌谷一六「豊漁盛福」額、中林梧竹「招四海財源」（ともに明治の三筆）の書が展示してある郷土資料館。

TEL.01632-5-2720
開館時間／10:00～16:00
休館日／月曜、祝日（5月3～5日は開館）年末年始、展示替日
入館料／大人300円、小中学生・高校生150円

3 「滄海」石碑
羽幌町焼尻

焼尻島の日本海を見渡せる高台に中野北溟生誕の地を記念した「滄海（おおうみ）」石碑がある。

4 「北の蒼い海」石碑
羽幌町港町1丁目51

中野北溟揮毫の「北の蒼い海」石碑。場所は羽幌フェリーターミナルの出入り口に向かって左側。

5 「記念公園ふるさと百年」石碑
羽幌町北5条1丁目

はぼろバラ園の駐車場入り口付近に中野北溟揮毫の「記念公園ふるさと百年」の石碑がある。

6 書の北溟記念室 ～中野北溟作品展示室
羽幌町南6条2丁目

中野北溟の常設展示室。所蔵品の中から20点ほどを展示している。羽幌町立中央公民館内にあり入場無料。不定期だが展示替えを行っている。また、公民館のエントランス壁面にも大書が展示されている。

TEL／0164・62・1178
開館時間／9時～17時半
休館日／毎月第4日曜、12月30日～1月3日

7 留萌振興局庁舎
留萌市住之江町2丁目1-2

2階の壁に中野北溟の大書が展示されている。これらは羽幌町の「書の北溟記念室～中野北溟作品展示室」の所蔵品。不定期で、展示替えを行っている。

TEL.0164-42-8404
開庁時間／8:45～17:30
休庁日／土・日曜、祝日、12月29日～1月3日

8 市立留萌図書館
留萌市住之江町2丁目1-1

休憩室に中野北溟による童謡「赤蜻蛉（とんぼ）」の歌詞が書かれた額が展示してある。歌詞の1番のみ大きく、2～4番までは、小さくだが全て書かれている。

TEL.0164-42-2300
開館時間／
10:00～18:00（4～10月の木曜は19:00まで）、
10:00～17:00（土・日曜、祝日）
休館日／月曜、その他図書館カレンダーに準ずる

9 留萌市海のふるさと館
留萌市大町2丁目3-1

中野北溟の書が会議室に飾られている。鑑賞希望の際はスタッフに依頼が必要。

TEL.0164-43-6677
開館時間／4月下旬～10月下旬の9:00～18:00
休館日／開館期間中は無休

10 旧商家丸一本間家
増毛町弁天町1丁目27

明治の三筆、巌谷一六による襖に書かれた漢詩が「奥の間」と「客間」に展示されている。

TEL.0164-53-1511
開館時間／4月下旬～11月上旬の10:00～17:00
休館日／木曜（祝日の場合はその前日）※7、8月は無休

11 石狩市はまます郷土資料館（旧白鳥家番屋）
石狩市浜益区浜益77-1

明治32年に建てられた鰊番屋を復元した郷土資料館。明治の三筆、巌谷一六の書が展示されている。

TEL.0133-79-2402
開館時間／5月1日～10月31日の10:00～16:00
休館日／火曜（祝日の場合は翌日）
入館料／大人300円、中学生以下無料

12 辻井京雲ギャラリー墨響（ぼっきょう）
雨竜町満寿28-3 道の駅「田園の里 うりゅう」内

平成26年4月開館。雨竜町出身の書家、辻井京雲の書が20点ほど展示されている。不定期だが、展示替えを行っている。入館無料。

TEL.0125-79-2100
開館時間／9:00～17:00（5～10月）、10:00～16:00（11～4月）
休館日／年末年始（12月31日～1月2日）

13 「石狩川」石碑
江別市萌えぎ野西

国道12号と石狩川の間、国道337号の美原大橋から札幌側の場所に中野北溟揮毫の石碑「石狩川」がある。

14 「大地の手」石碑
札幌市厚別区厚別町小野幌

野幌森林公園の「大地の手」モニュメントの40周年で建立された「大地の手」石碑。100年記念塔付近にある。揮毫は中野北溟。元になった書は北海道議会に寄贈された。

15 「創成の川」詩碑
札幌市中央区北1条西1丁目創成川公園

中野北溟が揮毫した原子修の詩「創成の川」詩碑がある。創成川公園の北1条～北2条エリア遊歩道の南西側。

16 石川啄木歌碑
札幌市中央区大通西3丁目大通公園（地下鉄「大通」駅6番出口の脇）

石川啄木像の横に歌碑「しんと して幅廣き街の秋の夜の玉蜀黍（とうもろこし）の焼くるにほいよ」がある。中野北溟が揮毫。

るもい地域の三筆

金田心象（かねだしんしょう）
明治40（1907）年～平成2（1990）年
留萌市生まれ、幌延町出身

文部省で習字の教科書執筆や学習指導要領の編纂に携わったほか、賞状・式辞などの揮毫を担当。書家として数々の役職を歴任。日展文部大臣賞、日本芸術院賞、勲四等旭日小綬章等を受章。肺炎のため82歳で死去。

中野北溟（なかのほくめい）
大正12（1923）年～
羽幌町焼尻島出身

日展審査員、創玄書道会、毎日書道会、北海道書道展等の役員を務める。生まれ故郷の北海道を愛し、近代詩文を中心に作家活動を続けている。受賞歴も多数。2009年、今までの功績を評価され旭日小綬章を受章。

辻井京雲（つじいけいうん）
昭和19（1944）年～
雨竜町出身

大学卒業後、金子鷗亭氏に入門。北海道教育大学教授、北海道書道展理事、ロンドン大学客員講師、大英博物館研究員などを歴任。国内外で活躍。また創玄展大賞他、数々の賞を受賞。後進の指導にも力を注いでいる。

Rumoi Area × Calligraphy and Story Journey
物語の舞台を巡るルート

あの名場面（シーン）の場所へ行き作品世界に浸る

映画やドラマのロケ地となった場所、また小説やマンガに登場する場所。るもい地域には、そういった物語の舞台となった作品世界に浸ることができる場所も多数存在する。

『氷紋』
小説 ドラマ
渡辺淳一の小説。1972年発表。ある女性の人目を忍ぶ恋愛模様を描いた作品。1974年と1986年にTVドラマ化もされている。

17 天塩町立国民健康保険病院
天塩町川口5699-3
主要人物の医者、久坂利輔が天塩の病院に赴任してくるという描写がある。

『遠別少年』
小説
坂川栄治の短編小説。遠別町で少年が見た、触れた、思った、感じたことが瑞々しく綴られている。

18 遠別町立遠別中学校
遠別町字幸和405
少年が通う中学校として、度々登場する。他にもスキー場や銭湯など、遠別町の様々な場所が舞台となっている。

『羊に名前をつけてしまった少年』
小説
樋口かおりの小説。遠別農業高校で起きた実話を基にした、命や食を改めて考えさせられる内容。当時の国語教師が執筆。

19 北海道遠別農業高等学校
遠別町北浜74
物語の舞台となった、るもい地域唯一の農業高校。

『白線流し 19の春』
ドラマ
1997年のTVドラマ。大ヒットした青春群像ドラマの続編。長瀬智也演じる大河内渉が初山別村の天文台に就職する。

20 歌越海岸
遠別町歌越
この砂浜を七倉園子と大河内渉が歩くシーンがある

22 しょさんべつ天文台
初山別村豊岬153
大学に合格したが、天文台で働く夢を叶えるため辞退して就職した天文台として登場。

23 国道232号
羽幌町～初山別村間
大河内渉が羽幌警察署の帰りに通る国道。

『感染列島』
漫画
2009年の映画。主演は妻夫木聡、檀れい。新種のウイルスがまん延し、爆発的に感染していくパニック映画。マンガ化もされた。

21 北日本牧場
初山別村明里
劇中に登場する。

22 しょさんべつ天文台
初山別村豊岬153
天文台が映るシーンがある。

『幸福の黄色いハンカチ』
ドラマ
2011年のTVドラマ。映画版と違い、羽幌町が舞台となっている。阿部寛主演。堀北真希、濱田岳出演という豪華キャスト。

24 羽幌町離島会館
羽幌町港町1
宿泊するペンションとして登場。パトカーで連行されるシーンなど、劇中で何度も登場する。

『君に届け』
漫画 アニメ
椎名軽穂作の純愛ラブストーリーマンガ。舞台となった「北幌高校」のモデルが羽幌高校と言われている。アニメ化に続き実写映画化された。

25 北海道羽幌高等学校
羽幌町南町8
高校編の舞台『北幌高校』のモデルになった高校。作者の母校でもある。

『羆嵐（くまあらし）』
小説 ドラマ
吉村昭の小説。ヒグマ被害の事件を基に描かれた。過去にTVとラジオでドラマ化。DVD化はされていないが、苫前町郷土資料館でドラマのダイジェスト版映像を見ることができる。

26 三毛別羆事件復元地
苫前町三渓
小説のモチーフとなった、実際に起こった事件の場所を復元した場所。電気が通っておらず、携帯電話の電波が届かない場所のため、訪問には時期、時間等に注意が必要。

『海萌ゆる』
小説
平井利果の小説。留萌を舞台に、流転する時代をしなやかに、気丈に生きた女性の半生を描く。

27 留萌港
留萌市元町5丁目
港のほか、留萌市内のほぼ全域が物語の舞台となっている。

『留萌交番日記』
ドラマ
北海道テレビ放送（HTB）で放送された北海道ローカルのTVドラマ。

28 旧瀬越駅前
留萌市瀬越町96
かつての瀬越駅前に交番のセットが組まれ、撮影が行われた。

『学校Ⅱ』
1996年の山田洋次監督映画。西田敏行主演。高等養護学校を舞台に、重い障がいを持つ生徒と軽い障がいを持つ生徒の3年間を描いた。

29 瀬越海岸
留萌市瀬越町
教師役の西田敏行と、吉岡秀隆が演じる生徒が語り合う場面は、現在のゴールデンビーチるもいそばの海岸。

『駅 STATION』
1981年の高倉健主演映画。増毛町を主な舞台に、様々な人間模様を描き出した名作。増毛町内に多数のロケ地が存在する。

30 旧瀬越駅跡
留萌市瀬越町96
増毛町が多く登場する映画だが、留萌市内も登場。

33 駅前観光案内所
増毛町弁天町
劇中に登場した風待食堂が映画のままの姿で再現され、観光案内所として公開されている。

『牛に願いを Love & Farm』
ドラマ
2007年の連続ドラマ。玉山鉄二主演。都会の農業大生たちの3か月間の北海道研修を描いた青春ストーリー。

31 礼受牧場
留萌市礼受町
『牛に願いを』で高清水高志が藤井彩華に海を見せに行った風車がある高台として登場。

『歩く、人』
2002年の映画。造り酒屋を営む父親と、離れて暮らす息子の交流を描く。緒形拳と香川照之が親子役を演じた。

32 国稀酒造
増毛町稲葉町1-17
緒形拳演じる造り酒屋を営む父親の職場、自宅として登場。

『魚影の群れ』
小説
1983年の映画。マグロ漁師と娘、娘の恋人の愛憎を描いた人間ドラマ。原作は吉村昭の短編小説。

34 旧旅館富田屋
増毛町弁天町1丁目15
劇中に登場するシーンがある。

『三度目の殺人』
2017年公開。福山雅治、役所広司、広瀬すず主演の法廷サスペンス映画。留萌市街、JR留萌駅ホーム、また増毛町内でもロケが行われた。

35 増毛町の海岸
増毛町別苅
『三度目の殺人』でロケ地となった。

『春との旅』
2010年の映画。増毛町と宮城県を舞台にしたロードムービー。仲代達矢と徳永えりが主演。

36 増毛駅
増毛町弁天町
駅が登場するシーンがあり、JRの車両内でも撮影が行われた。

『海賊版＝BOOTLEG FILM』
1999年の映画。親友同士のヤクザと警官が一人の女性をめぐってせめぎあうサスペンスロードムービー。

37 暑寒別岳スキー場
増毛町暑寒沢698-1
スキー場のシーンはこちらで撮影された。

『KOROSHI 殺し』
2000年の映画。会社をリストラされた男が、スカウトされ殺し屋に転職するサスペンス。石橋凌主演。

38 コテージミンズ
増毛町南暑寒町6
劇中に登場するログハウス。冬期以外は貸しコテージとして営業している。

このマークはDVDが発売されている作品です。なお、廃盤になっている場合があります　映画　ドラマ TVドラマ　小説　漫画　アニメ TVアニメ